



# 大阪ミュージアム構想の セカンドステージに向けて

大阪府府民文化部都市魅力創造局都市魅力課

蔭山 敦雄

## はじめに

大阪府内には、歴史的な建物やまちなみ、豊かな自然・みどりなど、魅力的な地域資源がたくさんあります。大阪ミュージアム構想は、これらを発掘・再発見し、磨き・際立たせ、結びつけることにより「まちの顔」を形成し、内外に情報発信するいわば「大阪の魅力づくりの府民運動」として推進しています。

昨年5月に橋下知事が、大阪ミュージアム構想を大々的に打ち出してから、ちょうど一年が経過しました。この稿では、昨年度にファーストステージとして実施してきた成果をお示しするとともに、今年度、セカンドステージとしてさらなるステップアップを図るための取組をご紹介します。

これを通じ、大阪ミュージアム構想の目指すものを、少しでも多くの皆さまと共有し、内外に誇ることのできる「ミュージアム都市大阪」の実現に寄与できればと考えています。

## 大阪ミュージアム構想の意義

大阪ミュージアム構想では「大阪の魅力づくり」を府民運動として展開するわけですが、それには三つの狙いがあります。

一つ目は、今ある地域資源を住民の皆さまに発掘・再発見していただき、そのことを通じて地域への愛着や誇りを持っていただく。それがこの府民運動の原動力になるということです。二つ目は、「地域の魅力づくり」を地域住民の皆さまが主役として行うことによって、人と人のつながりや地域の一体感

が高まり、「地域活動の活性化」を図ることができるということです。三つ目として、魅力的な地域資源が増え、各地域で楽しくユニークな活動が広まることの結果として、「地域間交流の拡大」が図られ、ひいては「観光集客の促進」につながり、活力あるまちづくりが実現するのではないかと考えています。

大阪ミュージアム構想はこれらの三要素からなる府民運動であり、多くの人に“元気”と“笑顔”をもたらす可能性を無限に秘めた取組です。

## ファーストステージの取組

平成20年度は、大阪ミュージアム構想キックオフの年として、同構想の周知に力を入れた結果、市町村や多くの府民の皆さまにご理解とご協力をいただき、今後の事業展開の土台固めを行うことができました。

昨年11月に、広く一般に大阪ミュージアムの「登録物」の推薦を呼びかけたところ、多くの魅力的な地域資源の推薦をいただき、今年1月には971件の「登録物」を決定することができました。2月には、その「登録物」から大阪ミュージアムのベストセレクションを選ぶため投票を呼びかけたところ、約6千件もの応募をいただき、そのなかから61件を選定することができました。今後は、このベストセレクションを大阪の「まちの顔」として、広く発信していきたいと考えています。なお、今年度も夏頃に「登録物」の募集を予定していますので、ふるってご応募いただきますようお願いします。

## 大阪ミュージアム「ベストセクション」

「登録物」の中から、府民投票結果をもとに企画委員会(会長：橋爪紳也)の審査を経て61件を選定しました。(平成21年3月発表)

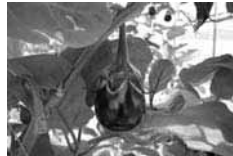
◇建物・まちなみ(16件) ◇みどり・自然(15件) ◇食・生活(11件)



泉州弥生の郷(和泉市、泉大津市)



長池オアシス(熊取町)



泉州水なす(泉州地域)

◇芸能・娯楽(5件)



山本能楽堂(大阪市)

◇その他展示品(5件)



万博記念公園(吹田市)

◇祭り・イベント(9件)



PL花火芸術(富田林市)

また、大阪ミュージアム構想を推進する財源として、「大阪ミュージアム基金」を設置し、ふるさと納税を活用した寄附をお願いしたところ、昨年度は約350件、7千60万円もの寄附を頂戴いたしました。

府民をはじめ全国の大阪を愛する皆さまの、大阪ミュージアム構想への期待の大きさを実感するにつけ、その責任の重さとやりがいを感じることのできた一年でした。

### セカンドステージの取組

平成21年度は、いよいよ大阪ミュージアム構想の本格展開の年として、府内各地域での魅力づくり活動がスタートしました。

大阪府では、大阪ミュージアム「登録物」の魅力づくりを行う市町村を支援するため、大阪ミュージアム基金を活用した補助制度を創設しています。

また、「登録物」を活用した複数のイベントを、季節ごとのコンセプトに基づいて結びつけ、地域の魅力づくりにつなげる「大阪ミュージアム特別展」を、市町村や地元団体の皆さまとの連携のもと開催しています。「特別展」の効果的な事業展開を図るため、

21年度は河内地域、22年度は泉州地域、23年度は北摂地域を重点地域としています。

さらに大阪市内では、「水都OSAKA 2009」や「御堂筋Kappo 2009」、「御堂筋イルミネーション」など、大阪を代表するイベントを大阪ミュージアムの主要事業と位置づけ、府内はもとより他府県の皆さまにも楽しんでいただけるような企画を進めています。

大阪ミュージアム構想のセカンドステージでは、構想の周知や「登録物」の募集が中心の土台固めの段階から、市町村や地域住民の皆さまによる具体的な魅力づくりの段階へと、大きくステップアップしてきました。

### 「大阪ミュージアム春の特別展」開催

「大阪ミュージアム特別展」の第一弾が、南河内地域一帯で“桜”をコンセプトに開催されました。メイン事業は、4月初旬に開催された、大阪狭山市の「狭山池桜まつり」、太子町の「太子聖燈会<sup>しょうとうえ</sup>」、河南町の「弘川寺さくらまつり」です。

いずれの「特別展」も、地域が誇る歴史的な舞台

## 大阪ミュージアム春の特別展

～おいでえや 南河内！～

### 桜まつり

会場：狭山池(大阪狭山市)



### 太子<sup>しょうとうえ</sup>聖燈会

会場：叡福寺(太子町)



### 弘川寺さくらまつり

会場：弘川寺(河南町)



に咲き誇る“桜”の美しさを、ライトアップや灯籠の“光”で際立たせたことにより、素晴らしい“空気感”が演出されました。例えば、「太子聖燈会」では、会場の叡福寺などが7千個もの灯籠の幻想的な光に包まれ、ひと目見ようと2日間で1万人もの来訪者がありました。

これらの「特別展」は、地元住民の皆さまが中心となり、それを地元自治体などが支援する形で実現したものです。「春の特別展」は先行事例として南河内で実施されましたが、河内地域の四季折々の魅力を伝える「特別展」が各地で企画されているところであり、今後どんな「空気感」に出会うことができるか本当に楽しみです。

### 「ミュージアム都市大阪」を目指して

大阪ミュージアム構想の主役は、いうまでもなく地域住民の皆さまであり、それを市町村や府がサポートするという体制で進めていきたいと考えています。この「魅力づくりの府民運動」が進展するための絶対条件は、取組んでいて“楽しい”と実感できることではないでしょうか。地域の魅力が増せば自

分も“嬉しい”し、もっと多くの方にも“見てもらいたい”、“自分の住むまちを魅力的にしたい”という、一人ひとりの熱い思いの積み重ねが、大阪ミュージアム構想の最大の推進力だと考えています。

大阪府では、同構想を最重点事業の一つとして推進するため、「将来ビジョン・大阪」（平成20年12月策定）の5本柱の一つに、「ミュージアム都市大阪」の実現を掲げました。「大阪といえばミュージアム」と言われるよう、国の内外から多くの人々が集い、にぎわい溢れるまちづくりを目指して、市町村や地域住民の皆さまと熱い思いを共有し、一生懸命取組んでまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いします。



大阪ミュージアム構想

“Osaka, The Museum” Concept

大阪ミュージアムHP

(<http://www.osaka-museum.jp/>)